

11 月度土曜例会(2017 年 11 月 18 日)

Guest speaker : Mr. David Turri (UK)

The title : `Ghosts of Kyobashi`

今年4月の例会でお話しいただいた Turri さんから `Ghosts of Kyobashi` という演題でお話しいただきました。

日本の幽霊と英国の ghost ではかなり異なる。日本の幽霊は sacred だが、UK の ghost は fascinated で delighted な存在である。ghost の住む mansion は価値が高い。



BBC のレポートでは

「34%の英国人が ghost を信じており、39% の人が ghost が出てくると考えており、28%の人が ghost を見ており、9%の人が ghost と交信した」とある。

現在、UK では、ghost がブームであり、ghost の住む大きな mansion の契約が行われており、ghost tour が企画されている。

ghost の住む中部地方にある Dudley Castle の tour は 49 ポンド/人である。

3 コースの食事+朝食付きで数多くの部屋を周り、e.m.f. (electric magnetic field) meter 付き調査機器までついた 99 ポンド/人かかる tour もある。

私の故郷である Liverpool では pm9:00 から am3:00 までの軽いスナック付き tour がある。

13 世紀中頃に建てられた ghost の住む mansion が、125 万ポンドで売られている。

エセックスでは、ghost の戦士が歩き回るといいう mansion が、130 万ポンドで発売されている。女性が持ち主で ghost が家の掃除もしてくれるという。

南イングランドでは、ポルターガイスト現象が起こるといいう家がある。

Jane という持ち主の屋敷には 7 人の ghost が住んでいるとのことで、Nanny と呼ばれる女性たちが子供の面倒を見てくれるという。

スコットランドのある屋敷では、朝食の用意、子供の学校の送り迎え、ベッドメイキングもしてくれるという ghost が住んでおり毎年 5 万ポンドを支払いながら、もう 10 年も住んでいるという。

昨年、5 人 Nanny が辞めた。

タリーさんは自分が出版した 2 冊の本を紹介しました。

29 Argyle Drive ; devil 的 exorcist 的な話題のもの。

Escarpment ; 第六感を持つ日本人の語ってくれた話に想を得た沖縄戦の ghost を描いたもの。

ここからはタイトルの京橋の幽霊について

京橋で働いている Mariko さん、大阪城近くに住んでいる退職した Akiko さん、私の生徒である Hiroko さんの友達である Ken さんともう一人の女友達のお話しです。

大阪城付近では 1614 年、豊臣と徳川方が争った大阪冬の陣と翌年の夏の陣でおびたしい人が命を落とし、多くの血が流された。

冬の陣では真田幸村が西軍で活躍し 1 万人を超える死者が出た。夏の陣でもレイプと殺戮が繰り返された。

また第二次世界大戦では軍需工場があったため、B29 による空襲が繰り返され 1 万人以上の市民が犠牲となった。

1945 年 8 月 14 日の京橋空襲では、身元不明者 500 人以上を含む 700 人以上が犠牲となっており今も慰霊祭が行われている。

私は、ghost は実在しないが仮想現実のようなものではないかと思う。一方、spirit は存在するものであり、人が交信することが出来るものと考えています。

大阪城公園近くに住む Akiko さんは、居間で馬に乗った幽霊の侍を見た。

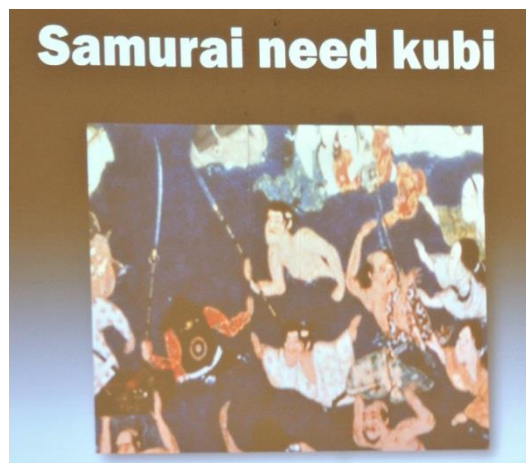
Ken さんは、学生時代にホテルで働いていた時に、夜の見回りの時、ホテルの廊下で侍が戦っているのを見た。

彼は、結婚し子供が出来たら、透視力（第六感）は消え去ったそうです。

大阪ビジネスパークにあるビルの最上階にあった会社の寮では、侍が夜毎に戦う姿を見る人が続出して、ここを離れて京都に移したそうです。

Akiko さんはビジネスホテルに泊まった時、ドアをノックする音がしたり、ドアのノブが動いたりした。フロントのモニターカメラで確認してもらっても誰もいないという経験をした。マネージャーが部屋を変えてくれたそうです。

Hiroko さんの女友達は、京橋の地下にあるレストランで気分が悪くなったそうです。



Marikoさんは京橋のビルの32Fのエレベーター・ホールで作業服を着た幽霊を見た。

目を合わせず、無視することで取りつかれなかったそうです。

Marikoさんは、中学時代に体育館で男子生徒の足首をひっぱるボヤーンとした灰色の細長い幽霊を見た。

ある日、友達が帰り道に体育館に忘れ物をした。

お守りがあるから大丈夫だと言って、体育館に戻って、バッグを持って帰ろうとすると「そんなものは意味ないよ」という囁きが聞こえたそうです。

千日前の幽霊の話



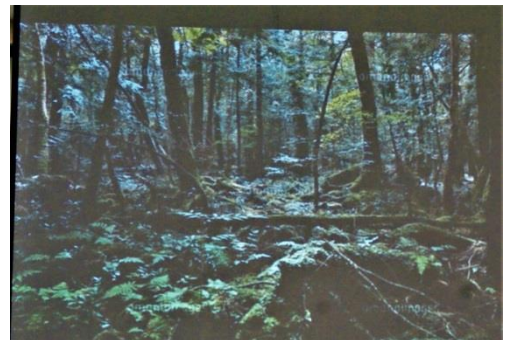
大阪の陣で多くの死者が出て、死体が埋められたので、18-19世紀は殆ど空地であったが、第二次世界大戦後、多くの施設が建設された。

1972年5月13日、この地に建てられていた千日前雑居ビルで大火災が発生した。

最上階がキャバレーであり、118人が亡くなり、ホステスたちが飛び降りて死ぬという痛ましい火事であった。この後、この近くで深夜にタクシーに乗った女性客が、目的地についた時にはいなかったという話が出てきたといえます。

富士山登山をした学生二人の話（サンダル）

富士山の岩を持ち帰ろうとして、車に積み込んだ後、自殺の名所である青木が原に寄り、歩き回り、女物のサンダルを拾って車に放り込んで帰る途中のトンネルの中で異変が起った。車が後ろから何者かに引っ張られた感じになり、運転制御が出来なくなった。乗せていたサンダルを車外に放り投げると、車の運転ができるようになったそうである。



USA のバッファローに住んでいた Susan の話 ; The face in the mirror.

家に帰りドアの鍵を開けて入ろうとすると、誰もいないはずの家の灯りが急につく。入り口でゴルフクラブを持って入ってみたが誰もいなかった。階下にいると、叫び声が聞こえたり人の走り回る気配がするが、上階にいる妹に電話で確認するとそんな音は聞こえないという。

夢を見て起き、洗面台を見るとミラーに自分を見つめる女性が映っている。
気味が悪くなり、ミラーを庭に投げ捨てて壊したら、異変が起こらなくなった。

質疑応答；幽霊の話の経験を話された方が多かった。

・あなたは、第六感はありますか？—ありません。(Turri さん)

日本ではお盆に先祖の魂を迎えるという習慣があるが、どう思うか？—
短いから良いのではないですか。

お盆には泳がないという言い伝えがあるが、あの世に連れて行かれることを恐れているのでしょうか？ 特に沖縄でいわれているようです。(沖縄戦の影響か？)

・デボラ・カーの映画の話や、「バンパイヤとドラキュラ」の映画の話。

ビールを飲むとあの世を信じますかとよく聞きますがどうでしょうか？

「無」という考え方と「輪廻」という考え方があるようですね。

・「耳なし芳一」の話と彼が弾き語りした「平家物語」の無常観の話。

・私のおじさんが、関ヶ原に行ったとき、侍が走り回るさまを見た。

私も関ヶ原に行ったが、酒を飲んでいて、あまり覚えがない。

親族の死後は、何か第六感のようなものが働きやすいようですね。

・火の玉が飛んできて、長年、蔵で病床に伏せていた女性が翌朝死んでいた。

・岸和田には spirit と交信できる人がいたという。

岩手地方の巫女のような方ですね。

・茨木神社には二神様がいらっしゃるらしい。

・故人だが友人に大戦時、東南アジアで 10 回以上死線を越えたような経験をした陸軍中野学校卒業の方がいて超能力を持っていた。

また、御巢鷹山の飛行機の搭乗券を持っていたが乗らなかった人は、グリコ事件の犯人探しで相談を受けていた。

私の聞いた話では、宝塚ファンの女性の中には、劇場に行くと宝塚の故人の姿が劇場のあちこちに見えるという人がいるらしい。

・死んだ奥さんの棺桶の蓋が勝手に開くという話。

最後に彼からのお話。

仲の良い友人二人の片方が亡くなった。

故人が夢に現れて、天国は良い所だ、毎日好きな野球ができる。

明日は、あなたがピッチャーをつとめて欲しい、と頼んだ。

翌朝、もう一人の友人は天に召された。

彼は It's Joke. と言ってにやりと笑う。

楽しいレクチャー有難うございました。